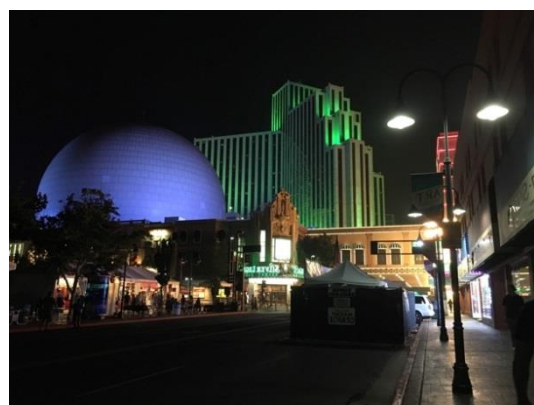


9ヶ月間のアメリカ留学

1. なぜ認定留学を選んだのか

私は、2018年3月から12月までの9ヶ月間、アメリカネバダ州にあるネバダ大学リノ校に認定留学として留学しました。東洋大学は昨年グローバル大学に指定され、様々な留学制度を取り入れるようになりました。そんな中で私が認定留学を選択した理由は、複数あります。まず、期間・大学の選択が他の留学制度よりも自由であったことです。私はSAFという大学が提携している留学機関の実施するプログラムに参加しました。そこは、世界中の様々な大学と提携しており、主にTOEFLやIELTSなどの取得点数によって留学先大学を選べるといった形で誰でも申し込みできます。交換留学は人数が限られているので、どうしても留学を大学生生活4年間の間に行きたい人はこちらで申し込みしてみてもいいのではないのでしょうか。またSAFは留学期間も選べます。私はどうしても3年生の間に留学をしたかったので2年生の春から3年生の冬までの半年語学、半年学部というプログラムに参加しました。また、2018年から認定留学の奨学金が交換留学と同じ額支給されることになり、それも認定留学の決め手の一つでした。



2. 留学先の様子



ネバダ大学リノ校はリノという町にあります。アメリカ北西部で、カリフォルニア州のすぐ隣に位置しています。リノは山に挟まれた町であるため標高はわりと高く、四季があり、1年を通して乾燥しています。個人的にはとても過ごしやすかったです。またリノはラスベガスのようなカジノの町として栄えており、「世界一大きい小さな町」という名称で有名な町です。ただ、そのような観光名所はあるものの街全体は静かです。大学街とも言われているので大学がメインになっている街でもあります。

3. 楽しかったこと

私は半年語学、半年学部というプログラムで参加したので、交流する学生もその半年ごとで大きく異なりました。最初の半年は英語を学びにきた世界中の学生、後の半年は主に現地の学生でした。最初の半年間は日本にいた時は出会えなかった様々な国の人々と英語を通して知れたことがとても楽しかったです。その中でも特に楽しかったのが、夏学期に留学しにきていたコスタリカの人々との交流です。約10人で留学してきていましたが一人一人とても個性的で、優しく、活発で、何よりも彼ら同士がとても仲がよくそれが私たちと交流する上で良い点となっていました。彼らが主催するパーティーに参加した時、南米の食べ物や音楽を体験でき、さらに私は、彼らからサルサというダンスを習い楽しみました。そのような文化を知ることができるのが語学学校のとても良い点です。

次に楽しかったのがアメリカ旅行です。留学中にある休みを利用して私はニューヨーク、ロサンゼルス、ラスベガスに旅行しました。どれも有名な観光地でしたが、アメリカ全体が多様性に溢れていました。

最後に楽しかったのが、ダンスチームの一員としてイベントに出たことです。私はオーディションに選ばれてチームの一員になりましたが、振り付けするリーダー4人とともに考えていくことがこのチームに加わることのルールでした。日本でダンスをしていたので、それと比べてみんもの考え方、ダンス色がどれも異なっていて毎回の練習でそれを発見するのがとても楽しかったです。そしてチームのイベントは私にとって夢だったので、出られたことが本当にこの留学の醍醐味と言えるくらい素晴らしい体験でした。



4. 苦労したこと

私はアメリカに強い憧れを持っていました。しかし、いざ一人で放り出されると環境に全くついていけず最初の2ヶ月は文化の違いにとっても苦労しました。周りはアメリカ人だらけで聞こえるのは全て英語。アジア人を見つけても彼らもそこで育った人たちと、頼ろうにもなかなか語学力が邪魔をしてはっきり物事を言えなくなってしまいました。わびさび文化で育った私の申し訳なさそうな態度はアメリカで一切通用しなかったのです。ここでやっと昔から言われていた、海外では日本と違い、物事の区別をはっきり主張することが大事だという教えの意味がわかりました。私は自分に自信をなくし、日本にいるときより自分がどう見られているのかひどく気にするようになりました。だから、はじめは部屋のドアを開けるのも苦痛で、クラスに行く前はいつも何度も自分に喝を入れていました。少し慣れてきたときは、自分のアイデンティティに迷うようにもなりました。きっかけは差別的言動を経験したことです。今までされたことのないことだったので衝撃的でカルチャーショックだったのですがそれを機に、どうすればみんなに混ざって目立たなくなるか、ずっと考えるようになりました。しかし、こんなことは本当に小さなことだと気づかせてくれたのが私のルームメイトでした。彼女は私にとっても優しく、それを相談すると、そういう人は無視すればいいよとだけ言ってくれました。気にしていないのです。私はそれから視野を少しずつ広くしてみました。そして気づいたのが、本当にそれぞれがそれぞれを、たとえマイノリティであったとしても気にせず、むしろ受け入れて共生していたことです。様々な人種がいるアメリカだからこそあり得る光景だと思いました。秋から留学してきた日本人にこのことを話してみたとき、彼らも同じ経験があったと言っていました。誰もそれを気にせず過ごしていることが私と違って、自分がいかに弱かったか改めて思い知らされましたが、これを含めとてもいい経験だったと今では感じています。「自由な国アメリカ」のいいところ、悪いところ、どちらも見せつけられ、アメリカについて多くのことを学ばせてくれる機会につながりました。



5. 成し遂げたこと成果

私の留学の目的は、自分の弱点を克服することでした。私は今まで自分の可能性をあまり信じず、comfort zone ばかりに身を置いていました。なかなか自分の殻を破けず人と仲良くなるのにも半年以上かかります。そんな自分が9ヶ月という短い期間でどれくらい自分を知ってもらえるか試しました。その他に様々なイベントに自ら参加しました。語学学校では毎週金曜日にイベントを実施しており、参加は自由でしたが私は全てのイベントに参加しました。街や文化を知りたか

ったというもありますが、何より自分を紹介して輪を広げて行きたかったからです。そんな活動のおかげで夏には、友達の紹介からあるダンスチーム参加の誘いを受けました。私は幼少期からダンスを続けており、留学してもダンスを継続させたいと思っていました。そんな中、自分がダンス好きであることをアピールしているうちに、大学のダンスクラブのメンバーの一人から誘いを受けるようになったのです。彼とは今でもとてもいい友達です。秋には、自分の能力が認められダンスが好きな学生と次々とつながることができました。「ダンス」ひとつでこんなに現地の学生と交流できるのは驚きでしたが、彼らは日本人としても私も受け入れてくれました。それが本当に嬉しかったし、残りの半年はより有意義な留学生活でした。



6. 後輩へのメッセージ

アメリカはとても広い国です。これは本当にそこに行ってみなければわからない感覚ですが。そして、そんな広いアメリカには日本で感じる以上に様々な考え方を持った人がいます。まさに自由の国です。だから、自分を思う存分試すことができます。そして本来の自分を見つけることができます。どんな目標で行っても多分アメリカでは自分の行動次第で達成することができると思うし、それは日本に帰ってきて生きる大切な体験だと思うので、ぜひアメリカで自分を活かしてみてもどうでしょうか。

7. 動画 リンク

<https://www.youtube.com/watch?v=uHt52l5AGVs>